

| | | |
|--------------|----------|-----|
| コートとり当番担当クラブ | | |
| 10月 | 11月分のコート | 東住B |
| 11月 | 12月分のコート | 恩多A |
| 12月 | 1月分のコート | 本町B |

発行責任者 柳 利夫
 住所 東村山市萩山町 5-6-26-301
 Tel. 0423-92-8808
 編集責任者 川村英明

技術部からのお知らせ

今年の秋の市民大会は雨にたたられ、日程が大幅にくるつてしまいました。その結果私達の定期練習(日曜、祝日)やその他に影響してきましてので10月以降の行事を下記のように変更しますので留意して下さい。

記

1. 秋季市民大会：(1) 男子、壮年ダブルス 10月3日
 (2) 女子ダブルスの残り 10月11日
 (但し、10月10日が雨天等で市の運動会ができなくなった場合は10月11日がその予備日となっているため女子ダブルスは10月17日となります。
 (3) 混合ダブルス 10月24日

2. 10周年記念部内大会

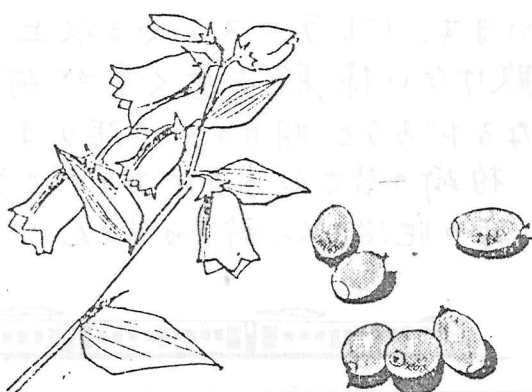
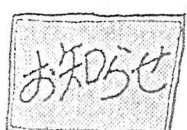
先に一部の方々にお渡ししました記念大会要項は市民大会が10月末日まで入ってしまったため実行不可能となりましたので、代わりにクラブ対抗戦を下記要項で行ないます。

3. 市民大会期間中の定期練習

土曜日は通常どおり
 日曜、祝日はジニアも含めて練習はありません。

4. 早朝練習

種々の事情により久米川コートでの早朝練習はできなくなりました。尚、運動公園における早朝練習については目下、市と調整中です。



<10周年記念部内大会要項>

1. 期日：11月21, 23, 28. 予備 12月5日
2. 場所：久米川テニスコート 5面
3. チーム数：各クラブ2チームまで
4. 種目：ダブルス
5. チーム編成：1チーム6組(男子3組, 女子3組)
6. 試合方法
 - (1). トーナメント方式
 - (2). 日程の許す限り緒戦、敗者チームによるコンソレーションも行なう。
 - (3). 1セット6ゲーム先取、ノーアドバンテージ方式
 - (4). ハンディキャップ制の採用：参加者全員に力量に応じてハンディーを与え、ペアのハンディーの合計をそのペアの固有ハンディーとし、対戦相手のハンディーと比較し、差のある場合は、その差に応じて各ゲームのポイントに差をつける。
 ハンディーの基準の一応の目安は次の通りとすが最終的には技術部で調整する。
 - ・ 技術部の大半 : -1点
 - ・ 中級者と技術部の一部 : 0点
 - ・ 初級者 : +1点
 - ・ 初心者 : +2点
 - (5). 一試合のメンバーの重複は許されないが1回戦ごとの選手の変更、ペアの組み替えは自由。
 - (6). 勝敗は勝ゲーム数/総ゲーム数で決する。
 - (7). 申し込みメット 10月31日までに各クラブの会長はエントリーチーム(1チームの2チーム)を武峯氏まで知らせて下さい。

※ 大会期間中の定期練習(日曜、祝日)はありませんので、初心者も積極的に参加して下さい。



対柏崎戦 完敗して乾杯!

武谷直也

第6回太田杯争奪東村山市、柏崎市の対抗テニス大会が、8月28、29の両日、柏崎市営白竜テニスコートで行われました。昨年は東村山市に柏崎市を招いたのに、雨にたたられ試合はできずじまいで、一昨年の優勝杯を持つての遠征となりました。

第6回目を教えながら今日までの対戦成績は2勝2敗。

今年も優勝杯を持ち帰るべく、東村山市硬式庭球連盟では、それにふさわしい選手選考を行ないました。今までの例で見る限り当市が遠征する場合、市民テの人達が大半を占めざるを得なかった事情がありました。今年はその障害の一つである遠征費用の硬庭連からの一部補助を連盟外の選手にも適用するなど一部改善し、強力な選手団を編成する努力を行ないましたが、

結果は選手団総勢28名(男18、女10)中、市民テ以外の連盟傘下のクラブから2名、一般から1名というコトになり、広く選手を集めることはできませんでした。

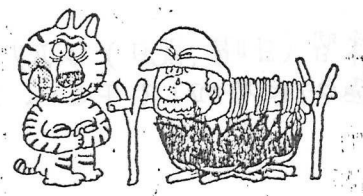
しかし、市民テの選手は精神年齢(?)も含めて若手が多く、これまでになくはなせいだ遠征となりました。

対抗戦の結果は8勝29敗と完敗に終わりましたが、太田杯の一つの目的である親睦、親善の役割は十二分に果たせたと思っており、今回の選手団の顔ぶれがはからずもそのよき結果を生んだのではないかと勝手を個人後援をして満足している次第です。選手の皆さんごくろう様でした。完敗に乾杯!!

最後に、柏崎の皆さんの心温まるもてなしに、心からお礼申し上げます。来年は東村山市でお会いしましょう。

尚、市民テの選手団をかかげておきます。

(本保、増沢、藤岡、松井、木村、青山、森田、江原、高瀬、米田、米沢、横山、武谷、山口、中川、鎌山、豊山、江原、木村、小林(紀)、桑原、酒井、以上順不同)



編集部より
原稿の都合で私とテニス
自己紹介は次号に回します。

第6回 柏崎戦に参加して

青葉クラブ 高瀬 欣也

炎天下の白竜コート(40°C近くあったと思う)に柏崎の選手団と馬丁形に並んで、セレモニーが始った時には、何か団体の選手になった様な気がしました(少々オーバーかな)。

今年程柏崎に行きたいと思いましたが、昨年はありません。昨年雨で流れて、今迄一度も柏崎戦に出場したことがなかったためでしょう。

親善、公式戦計4試合しましたが、ダブルスの三試合は米田さんと組んで順調に行きました。私にとって炎天下での最後のシングルスは、とてもきつい試合でした。スタミナが今後の課題です。

いつもそうですが未知の人と試合する時は、色々の戦法、打ち方等勉強になります。今回も特に軟式から転向した選手が多く、その中でも、軟式グリップでバックをクロスにも、ストレートにも強力なドライブで打ち分けていた柴野選手が特に印象的でした。

私にとって大収穫はお別れパーティーの時、致謝賞(全勝のため)として高価な木のテカラゲをいただいたことです。壮年のNo.1と対戦しなかったのがラッキーだったので、家の宝として大切にしたい。

全体として8勝29敗の大差でしたが、姉妹都市としての親善大使の役目は十二分に果たせたと思えます。最近都会では味わえない心温まるもてなしを沢山受けました。若い人達にオートバイを世話して下さい。市の課長さんが案内役をかって出て先導して下さい。お土産をいただいた上にホームの見送りの折、壮年の人達だけにと又、お土産を渡された時には、一本取られた思いをしました。

来年、柏崎の人達をお迎えして、これ以上のもてなしができるだろうか。今から心配しています。でもテニスをやる以上、柏崎の皆さんに負けぬ様、腕を磨く事が何よりのもてなしになるだろうと、明日から頑張ります。

柏崎の皆さん本当にありがとうございました。市の肥沼さん、幹事の皆さんごくろうさまでした。

